

授業科目(ナンバリング)	相談援助の理論と方法ⅡB(DA309) (実践的教育科目)			担当教員	ヴィラーグ ヴィクトル (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>社会福祉士（ソーシャルワーカー）に求められる専門力の向上を中心に取り組み、相談援助（ソーシャルワーク）において求められる各種理論及び方法に関する基礎的な知識の習得を目指す。</p> <p>具体的には、スーパービジョン、個人情報と ICT 技術、グループワーク、社会資源、アウトリーチと交渉、ネットワーキング、事例分析について学ぶことをねらいとする。その中で、枠組みに沿って実習体験について整理しながら、ソーシャルワークに関して残っている疑問点をなくしていく。</p>							①④⑤⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ソーシャルワークに関する理論及び方法について説明できる。 ソーシャルワークに関する基礎的な用語・概念を理解できる。				定期試験 小テスト	20% 30%	
情報収集、分析力	ソーシャルワークに関する基礎的な用語・概念を整理できる。				単語帳	20%	
コミュニケーション力	ソーシャルワークについて自分の言葉で表現できる。				定期試験	20%	
協働・課題解決力	ソーシャルワークに関する事例に取り組むことができる。				定期試験	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験（50%）では、スーパービジョン、個人情報と ICT 技術、グループワーク、社会資源、アウトリーチと交渉、ネットワーキング、事例分析に関する知識の習得度を評価する（持ち込み不可；再試験を受ける場合に必ず事前に教員に相談すること）。小テスト（30%）では、学んだ用語・概念の理解度を問う。単語帳（20%）では、専門用語を自分の言葉で適切にまとめられるかを評価する。必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内でフィードバックを行う。</p> <p>なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授業の概要							
<p>基本的には講義形式で授業を進めるが、理解を深めるためのグループワークとレスポンスを使った社会福祉士国家試験の過去問題も頻繁に取り入れる。スーパービジョン、個人情報と ICT 技術から出発し、個人（ケースワーク）を超えて、集団（グループワーク）や地域（コミュニティワーク）を対象としたソーシャルワークの在り方、事例の扱い方について学ぶ。「ソーシャルワークとは何か」という根本的な問いを常に意識し、教員の国際ソーシャルワーカー連盟地域会長補佐、外国人支援団体の相談員と重度訪問ヘルパーとしての実務経験を基に、ソーシャルワーク特有の人間観と援助観を身につける。</p> <p>本科目の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・社会福祉士養成講座〈7〉相談援助の理論と方法Ⅰ～Ⅱ（第3版）』中央法規出版。</p> <p>参考書：北島英治（2016）『グローバルスタンダードにもとづくソーシャルワーク・プラクティス』ミネルヴァ書房。</p> <p>指定図書：豊中市社会福祉協議会（2012～2014）『セーフティネット1～3』七七舎／ブリコラージュ。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>社会福祉士国家試験受験資格の指定科目であるため、国家試験を意識すること。講義を軸にしながら、予習・復習の一環として教科書を事前・事後に確認し、専門書を読む習慣を身につけるなど、抽象度及び専門性の高い内容に対する理解を深められるように努力すること。講義・演習・実習を含めて複数の関連科目の「総括科目」の意味を有しているため、国家試験受験に向けて最後の体系的な学習機会に対して高い志をもつこと。</p> <p>なお、本科目専用のノートはもちろん、聞き慣れない専門用語について自分にとって分かりやすい言葉で記入する単語帳を導入することを強く勧め、定期的に確認し、評価の対象とする。</p> <p>また、出席管理に影響するため、教員が示す座席指定表に従って座ること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション スーパービジョン	授業の進め方、評価等の確認を行い、予備知識と期待を整理する。 スーパービジョンとコンサルテーションの基礎とその違いについて学ぶ。	予習：教科書 199-213 頁 復習：小テストの準備
2	相談援助と個人情報の保護、 相談援助における情報通信 技術の活用	個人情報保護の基礎概念、原則と制度、またソーシャルワークにおける ICT の活用と留意点について学ぶ。(小テスト①)	予習：教科書 241-265 頁 復習：小テストの準備
3	集団を活用した相談援助①	ソーシャルワーカーがファシリテーターを務めるグループワークについて学ぶ。(小テスト②)	予習：教科書Ⅱ 59-71 頁 復習：小テストの準備
4	集団を活用した相談援助②	グループワーク以外のグループ活動について学ぶ。(小テスト③)	予習：教科書Ⅱ 72-80 頁 復習：小テストの準備
5	相談援助における社会資源 の活用・調整・開発①	社会資源の概念と活用について学ぶ。(小テスト④)	予習：教科書Ⅱ 105-115 頁 復習：小テストの準備
6	相談援助における社会資源 の活用・調整・開発②	社会資源の開発とソーシャルアクションについて学ぶ。(小テスト⑤)	予習：教科書Ⅱ 115-126 頁 復習：単語帳の準備
7	アウトリーチ	アウトリーチと交渉について学ぶ。(単語帳の提出①)	予習：教科書Ⅰ 155-165、 295-312 頁 復習：小テストの準備
8	ネットワーキング①	コーディネーションについて学ぶ。(小テスト⑥)	予習：教科書Ⅱ 81-91 頁 復習：小テストの準備
9	ネットワーキング②	ネットワーキングの概要とソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。(小テスト⑦)	予習：教科書Ⅱ 92-96 頁 復習：小テストの準備
10	ネットワーキング③	ネットワーキングの国内動向について学ぶ。(小テスト⑧)	予習：教科書Ⅱ 96-103 頁 復習：小テストの準備
11	ネットワーキング④	ケースカンファレンスについて学ぶ。(小テスト⑨)	予習：教科書Ⅱ 215-239 頁 復習：小テストの準備
12	事例分析①	事例研究の概念と手法について学ぶ。(小テスト⑩)	予習：教科書Ⅱ 267-283 頁 復習：単語帳の準備
13	事例分析②	事例分析と事例発表の手順について学ぶ。(単語帳の提出②)	予習：教科書Ⅱ 284-291 頁 復習：社会福祉調査論の振り返り
14	相談援助の実際	事例問題の解き方について学ぶ。	予習：相談援助関連科目の 総括振り返り 復習：疑問点の整理
15	まとめ	受講生自身による後期の振り返りとまとめを行う。	予習：後期の振り返り 復習：後期の復習
16	定期試験		